

公開講座 第三回 「やさしい経営学」

～ベンチャービジネスの概念を学ぶ～

開催日： 2013 年 8 月 31 日(土) 15:30～17:00

宮脇 敏哉 教授

～起業家とイノベーションの実際を説明します～

シュンペーターの新結合と経営戦略を駆使して経営管理を行うことを学ぶ

シュンペーターが「新結合」からイノベーションの重要性を説いて変化、変革が始まりました。シュンペーターは新結合を「生産性諸力の結合の変更」と定義しました。イノベーションは技術革新であり、その企業が成長するにも衰退するにも大きくかかわってきます。ドラッカーが「断絶の時代」のなかで、すべてが変革しなければ成長がないと述べたようにイノベーションは企業経営の根幹をなしています。プロセス型戦略は、イノベーション志向の戦略です。イノベーションはしばしば辺境から生まれます。イノベーションには高い不確実性が常に存在しているために組織の中央部ではなかなか受容されていません。さらにイノベーションは本来、個人の強い独創性とかアントレプレナーシップ（企業家精神）によってひき出されます。

日本企業の多くはこの小さなイノベーションを積み上げそれを大きなイノベーションに育てる能力を持ちます。トップダウンではイノベーションは育ちません。構成員の強い意思決定が必要です。経営戦略が明確化された企業においては、組織は一糸乱れぬ行動をとることができます。

アントレプレナーの経営戦略は 4 つあり、①総力による攻撃、②弱みへの攻撃、③隙間の占拠、④価値の創造であります。これを 3 つ組み合わせることによって 4 種類の戦略とすることができます。アントレプレナーの検討により以下の点が明らかになりました。①何もない所から、アントレプレナーが起業することは確固たる自身とゆらぐことのない信念をそなえていることがコアとなります。②ベンチャー企業のクラスター地域に生まれ育つと必然的にアントレプレナーの要素をもつこととなります。③IPO, M&A までに到達するというビジョン設定ができています。④人から使われるのではなく、人を使う立場にあこがれる人が起業します。⑤コアコンピタンスとなる新技術および新ビジネスモデルを所有しています。⑥ミッションをもち、それを達成したいという願望が強いです。⑦人から認められたいという願望が強いです。アントレプレナーの研究の基礎はシュンペーターのイノベーション、進取の気性によっているが近年の研究により、「新結合」が的確であるとします。

以上